

企画展

あいちの 発掘調査 2025



史跡 小牧山 (小牧市)

朝日遺跡
(清須市・名古屋市西区)

青山神明遺跡・青山金剛遺跡 (豊山町)

西二葉町遺跡 (名古屋市東区)

森後町遺跡 (名古屋市熱田区)

青塚古墳 (幸田町)

エベス塚古墳 (西尾市)



AICHI ASAHI SITE MUSEUM

あいち朝日遺跡ミュージアム

はじめに

愛知県内では、毎年多くの遺跡で県や市町村等による発掘調査が行われており、貴重な発見が相次いでいます。今回の企画展では、森後町遺跡(名古屋市熱田区)、青塚古墳(幸田町)、エベス塚古墳(西尾市)、史跡 小牧山(小牧市)、青山神明遺跡・青山金剛遺跡(豊山町)、西二葉町遺跡(名古屋市東区)など、県内各地で行われた最新の発掘調査の出土品を展示します。

展示は、県内各地の発掘調査を実施し、大きな成果を挙げてきた公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター(弥富市)の協力を得て、考古学の視点から県内各地域の歴史を概観できる展示となっています。

目次

はじめに	2
森後町遺跡	3
青塚古墳	4
エベス塚古墳	5
史跡 小牧山	6
青山神明遺跡・青山金剛遺跡、西二葉町遺跡	7
朝日遺跡	8

凡例

- ・本書は2026年1月17日(土)～3月8日(日)まで、あいち朝日遺跡ミュージアムで開催する企画展「あいちの発掘調査2025」の展示パンフレットである。
- ・本展覧会は、愛知県から委託を受けて公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター(以下、愛知県埋蔵文化財センター)が企画した。
- ・本書の構成と実際の展示構成は異なる部分がある。
- ・掲載写真のうち、撮影機関と提供機関が同一の場合は提供機関のみを記載した。
- ・調査成果の紹介文は、調査機関から提供を受けた原稿をもとに、愛知県埋蔵文化財センターが取りまとめた。
- ・本書のデザイン・イラスト画は小川敦子が行った。
- ・本展覧会の開催にあたり、下記の機関、個人の協力を得た。
愛知県埋蔵文化財調査センター、幸田町教育委員会、小牧市教育委員会、豊山町教育委員会、名古屋市教育委員会、西尾市教育委員会
浅岡 優、稲垣 彩乃、海部 陽介、片桐 妃奈子、河内 一浩、高山 英里香、田中 芳樹、濱崎 健、増山 禎之

表紙：①森後町遺跡／円窓付土器／名古屋市教育委員会蔵
②森後町遺跡／方形周溝墓・SZ01 土器出土状況／名古屋市教育委員会提供
③西二葉町遺跡／陶製狛犬／愛知県埋蔵文化財調査センター蔵
④青塚古墳／金銅製帯金具／幸田町教育委員会蔵
⑤青山神明遺跡／古瀬戸四耳壺／愛知県埋蔵文化財調査センター蔵
⑥青塚古墳／石室／幸田町教育委員会提供
⑦エベス塚古墳／須恵器提瓶／西尾市教育委員会蔵

森後町遺跡

注目ポイント 弥生時代後期の方形周溝墓群・円窓付土器・パレススタイルの壺や高杯が出土

所在地	名古屋市熱田区玉の井町
時代	弥生時代後期から江戸時代
遺跡種別	集落
主な出土品	弥生土器（円窓付土器・パレススタイル土器）・土師器・須恵器・山茶碗
調査機関	橋本技術株式会社

森後町遺跡は名古屋市の熱田台地の南東縁に位置する遺跡で、今回の調査により弥生時代から江戸時代にかけての遺構と遺物が確認されました。

遺跡の中心となるのは調査区南西側で確認された弥生時代後期の方形周溝墓群です。方形周溝墓は4基あり、墳丘をめぐる周溝の前後関係から SZ03 → SZ01・02 → SZ04 の順に築造されたものと推測され、特に SZ04 は SZ03 の一部を壊して築造されていました。墳丘の規模は一辺が約 8 m～約 14.3m の中型のもので、墳丘をめぐる周溝からは、多数の弥生土器・土製品が出土しました。なかでも、SZ03 の周溝から円窓付土器、赤彩されたパレススタイルの壺・高杯などの弥生土器が多数出土しました。また小さい破片ではありますが銅鐸形土製品やイヌの骨も出土しました。

今回の調査により、森後町遺跡は弥生時代後期の方形周溝墓群が展開する遺跡であったことが明らかになり、過去の小規模な調査により発見されていた弥生土器、イヌの骨などの出土遺物や溝と関連する遺構群と思われます。



3-2 円窓付土器



3-3 森後町遺跡調査地周辺の状況



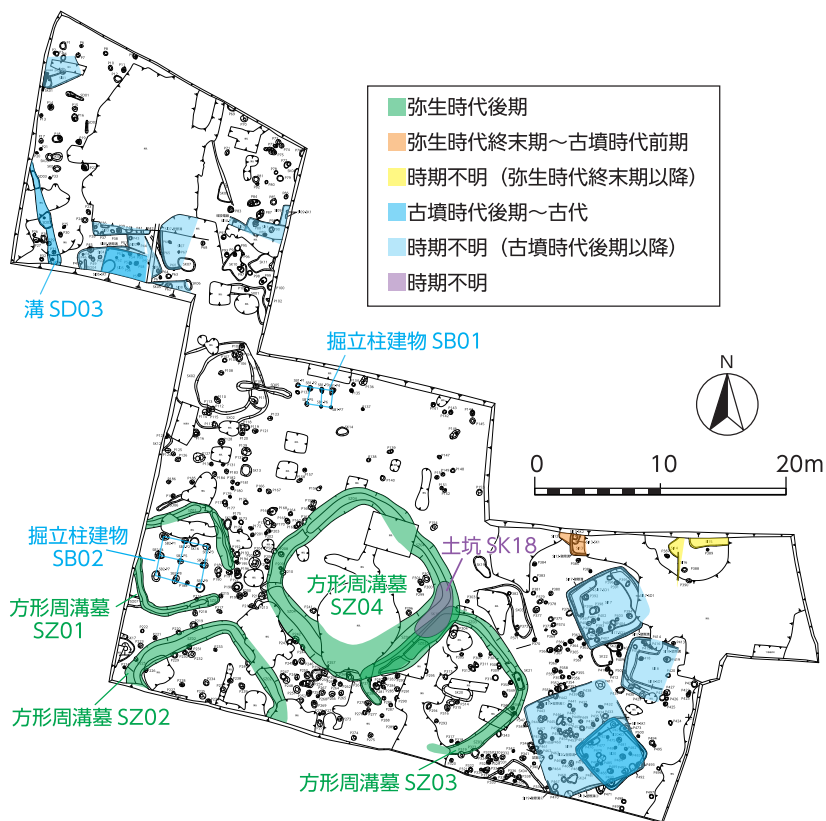
3-4 方形周溝墓SZ01と掘立柱建物SB02



3-5 方形周溝墓SZ01土器出土状況



3-6 円窓付土器出土状況



3-1 調査区平面図

青塚古墳

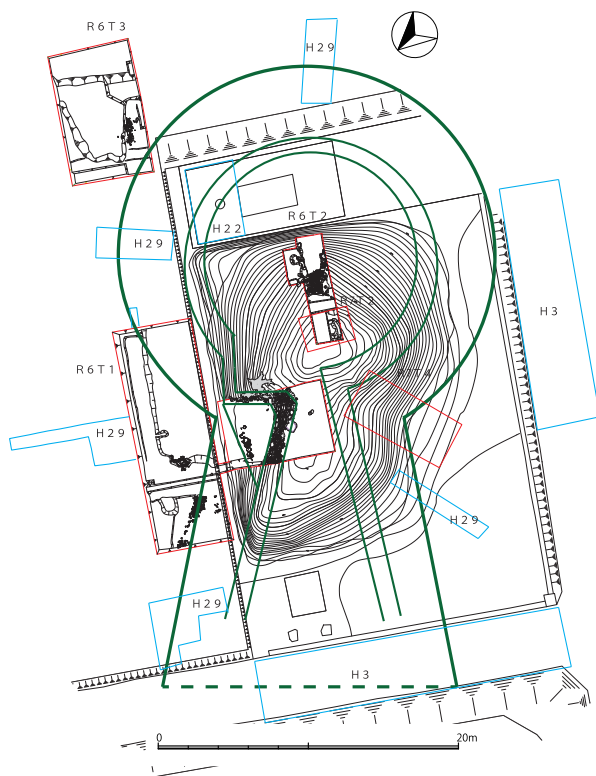
注目ポイント 東海地方における横穴式石室
導入期の竪穴系横口式石室

青塚古墳は、幸田町北部に位置した5世紀後半から6世紀初頭に造られた全長約38mの前方後円墳です。1910(明治43)年、耕地整理に伴う土取りの際に、石室が開かれ、人骨や副葬品が発見されました。全国的に出土例が少なく、注目されている龍の透かし彫りが施された金銅製帯金具や直弧文が刻まれた鹿角製刀装具は、この時に見つかった物です。これらの副葬品から、被葬者が、ヤマト政権や大陸とつながりのある人物であったことが想定されています。

2024(令和6)年度からの墳丘の調査により、くびれ部一帯では、葺石が前方部からくびれ部にかけて直線状に並び、くびれ部で北側へほぼ直角に曲がる構造が確認できました。葺石の下側に広がる平坦面では、7基の埴輪はにわが並ぶ埴輪列を確認できました。この埴輪列は、葺石と並行せず、北側に開いています。葺石と埴輪列の間では、蓋形埴輪片や家形埴輪片、土師器片が集中して出土しているため、この場所で祭祀を行っていた可能性が想定されます。次に石室の調査では、西側に入口を持つ竪穴系横口式石室であることが明らかとなりました。

2025(令和7)年度の発掘調査では、被葬者の人骨の再分析を中部学院大学に依頼して実施しました。その結果、年齢が30代後半から40代後半、身長166.4cmの壮年男性と分かりました。青塚古墳の被葬者は、古墳時代の平均身長163cmを上回る人物であったようです。また骨の特徴から、腰痛もちで、馬によく乗っていたことも判明しました。

所在地	幸田町大字坂崎字弁天地内
時代	古墳時代
遺跡種別	古墳
主な出土品	埴輪・金銅製帯金具・鹿角製刀装具等
調査機関	滋賀県立大学・幸田町教育委員会



4-1 境丘測量図と調査区配置図



4-2 明治時代に発見された青塚古墳出土遺物



4-3 墳丘北側くびれ部の葺石と埴輪列



4-4 奥壁側から石室内を望む

エベス塚古墳

注目ポイント 三河湾を望む横穴式石室を有する古墳の調査

エベス塚古墳は佐久島の西港近くの丘陵上に位置する古墳で、墳丘上には横穴式石室の天井石と思われる石材が残されていました。

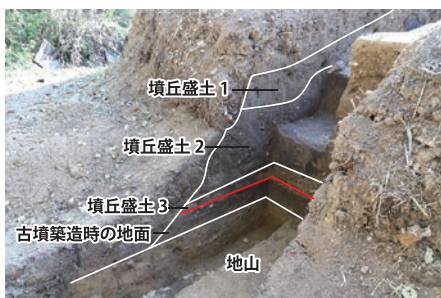
調査の結果、古墳は当時の地表面の上に盛土を行って築かれていたことが確認できました。墳丘の現状から考えると直径20m、高さ4m 程の円墳であったと推定されます。石室は西に入口をもつもので、奥壁と側壁の下段の一部を確認することができました。使われた石材はすべて佐久島産泥岩(佐久石)で、奥壁は小さな石材を、側壁はすべて長方形の大型の石材を積み上げられていました。

出土遺物は石室の一部掘り下げた下層から須恵器の杯片や鉄銚が、石室南東隅から須恵器の提瓶・鉄刀・鉄鏃が出土しました。出土した須恵器は6世紀初頭～中葉のものと考えられます。石室内でみつかった石棺は板状の佐久石を使用した組み合わせ式石棺で、石棺の蓋石が完全に残っていることから、未盗掘の可能性あります。佐久石を用いた石棺は佐久島内や周辺地域の古墳で発見されています。

所在地	西尾市一色町佐久島
時代	古墳時代後期
遺跡種別	古墳
主な出土品	須恵器・鉄製品など
調査機関	西尾市教育委員会



5-1 エベス塚古墳空撮写真



5-2 墳丘盛土確認の様子(A地点)



5-3 墳丘盛土確認の様子(B地点)



5-4 墳頂部に散乱した石材



5-5 石室の状況



5-6 石棺の様子



5-7 石室から出土した遺物

し せき こ まき やま 史跡 小牧山

注目ポイント 織田信長も歩いた 小牧山城大手道の調査

所在地	小牧市堀の内一丁目
時代	戦国時代
遺跡種別	城館
主な出土品	施釉陶器・磁器・土師器など
調査機関	小牧市教育委員会

小牧山は、濃尾平野の北東部に独立して所在する小山で、織田信長により1563(永禄6)年に小牧山城が築城され、稲葉山城(現在の岐阜城)に移るまで、4年間居城としました。1584(天正10)年の小牧・長久手の合戦時には、織田信雄・徳川家康連合軍が信長の城跡に改修を行い、本陣としました。

小牧市教育委員会では、2024(令和6)年5月から2025(令和7)年2月にかけて小牧山城の大手道の史跡整備に先立ち、大手道の構造や山側法面の状況を明らかにするため、発掘調査(調査面積408㎡)を実施しました。

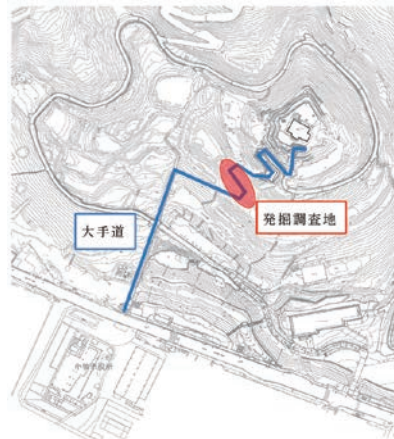
大手道では、つづら折りの道の一番下と、下から2段目の屈曲部の調査を行った結果、非常に大規模な造成が行われ、幅の広い平坦な面を造り出していることが明らかとなりました。

調査区山頂側の斜面では、上半が石垣、その下が切り立てられた土と岩盤からなる壁面により急な傾斜を造り出していることを確認しました。

上部の石垣や切り立てられた地山、岩盤の高さをすべて合わせると、最も高い箇所では4.2mもあります。

調査区西側では、山の本来の斜面地形に沿って、谷側を埋め立てて平坦面を造り出しています。盛土の高さは確認できた範囲で最大1.5mありました。

今回の調査では、信長が小牧山城を築城する際、大手道において、山の本来の地形を変えるほどの大規模な造成を行い、広い平坦面を造っていることが明らかとなりました。このことから、山の地形を大きく変えてでも、信長の自分の理想とする城を造り上げるという築城の姿勢が見て取れます。



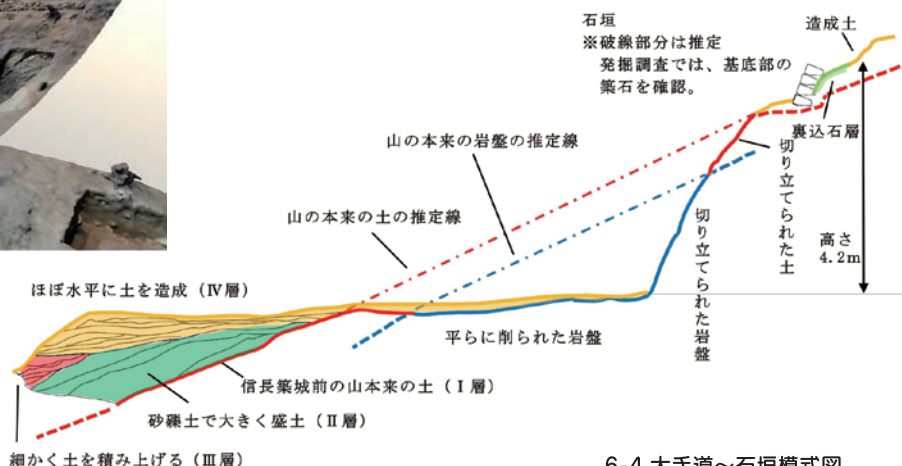
6-1 調査位置図



6-2 石垣検出状況(東トレンチ内)



6-3 発掘調査状況



6-4 大手道～石垣模式図

青山神明遺跡・青山金剛遺跡

注目ポイント 古墳時代から室町時代にかけての
集落遺跡、その変遷に迫る

西春日井郡豊山町にある青山神明遺跡および青山金剛遺跡は、県営名古屋空港の西にひろがる縄文時代草創期から近代にかけて営まれた遺跡で、2023(令和5)年5月から発掘調査が行われています。

これまでの調査成果で、古墳時代前期には、遺跡北部で堅穴建物跡からなる集落が確認され、奈良・平安時代では、遺跡の西部で掘立柱建物跡や堅穴建物跡が散在して見つかっています。

鎌倉時代から室町時代では、遺跡全域で集落が広がります。その中で、遺跡の南部において、古瀬戸四耳壺がほぼ完全な状態で出土しており、塚や墓に伴う壺の可能性がります。

所在地	豊山町大字青山
時代	縄文時代草創期から近代
遺跡種別	集落
主な出土品	弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・山茶碗・施釉陶器など
調査機関	愛知県埋蔵文化財センター



7-1 大型土坑出土の古瀬戸四耳壺

西二葉町遺跡

注目ポイント 犬山城主成瀬隼人正中屋敷地と
近代以後の学校跡の調査

本発掘調査は名古屋市東区にある愛知県立明和高等学校の校舎建て替えに伴うものです。調査の結果、江戸時代の成瀬隼人正中屋敷の調査では、建物の柱穴に木曽川の河原石を根石とした柱痕跡が多数見つかり、その周辺では井戸やカマド跡が発見されました。また、その南側では地下室をはじめとする大型土坑が多くつくられ、多量の遺物が出土しました。明治時代以降は愛知県立第一中学校・名古屋帝国大学・愛知県立第一高等女学校・愛知県立明和高等学校の学校用地として継続して使用されてきました。24D区では愛知県立第一中学校校舎基礎跡が良好な状態で見つかり、24Ae区では愛知県立第一高等女学校木造校舎の基礎跡が確認されています。さらに、24B区南端において名古屋帝国大学の学生食堂舎の基礎跡が非常に良好な状態で発見されました。

所在地	名古屋市東区白壁
時代	江戸時代、近代
遺跡種別	武家屋敷、学校
主な出土品	施釉陶器、磁器、瓦、狛犬など
調査機関	愛知県埋蔵文化財センター



7-2 近世整地層下 24B区全景、上が北



7-3 成瀬家屋敷関連遺構(廃棄土坑)



7-4 愛知県立第一中学校校舎基礎



7-5 陶製狛犬

あさ ひ い せき
朝日遺跡

注目ポイント 海との関わりが強い
弥生時代の巨大集落

所在地	清須市、名古屋市西区
時代	弥生時代
遺跡種別	集落
主な出土品	土器・石器・木器・骨角器など
所蔵	あいち朝日遺跡ミュージアム

東海地方最大の弥生集落朝日遺跡。長年にわたる発掘調査の結果、様々な遺物が出土しました。そのうち主要な出土品2,028点が国の重要文化財に指定されています。

朝日遺跡の出土品を見ると、意外と海に関わる資料が多いことに気づきます。本企画展では、講演会・シンポジウムのテーマ「海の考古学」にちなみ、漁労具を中心に展示しました。8-1は、朝日遺跡から出土した様々な漁労具です。石錘^{せき すい}、土錘^{ど すい}は網の錘として使われました。釣り針^{とつ ぎ}は鹿の角やイノシシの牙から作られています。刺突具^{し とつ ぐ}のやす^{やす}はシカの骨、固定鉞^{こ て い もり}はシカの角を加工して作られたものです。8-2は、クジラの肋骨で作られた剣形骨器^{けん かた}ですが、アワビおこしも言われています。

朝日遺跡の漁労の様子は、基本展示室1のクローズアップ模型「海での活動」をご覧ください。



8-1 様々な漁労具 重要文化財



8-2 剣形骨器(アワビおこし) 重要文化財



8-3 クローズアップ模型「海での活動」

8-1～3: 本館 撮影

あいち朝日遺跡ミュージアム

■ 愛知県清須市朝日貝塚1番地 ■ TEL: 052-409-1467 ■ 駐車場 15台

企画展

「あいちの発掘調査2025」

編集・発行: あいち朝日遺跡ミュージアム
2026(令和8)年1月17日発行



**AICHI ASAHI
SITE MUSEUM**
あいち朝日遺跡ミュージアム

